短歌　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　佐々木　司

おだやかな 春日の下の　バーベキュー　 口一杯に　幸せが  
溶姫は 赤門に立ち 何思う 今は、学生 憧れる

日産に　カルロスゴーンは　もういない　諸行無常の　鐘がゴーンと

ゴーン去り 諸行無常の鐘響く　ゴーンは、どこへ行ったのか

例会を 楽しみながら　よき友と　こうして今年　年が過ぎ行く

昼食に 買いし秩父の わらじかつ　思いのほかに、美味なりけるや

橋立の 鍾乳洞は 思い出に かなりの運動 疲れけるなり

そうめんの 薬味で食し このみょうが　秩父の思い ふと湧き上がる

江ノ島の　洞窟着くも　工事中　帰りの道の　なんと長きか

江の島で　初めて食す　生シラス　なんと美味なり　これぞ名物

江の島の　階段急だ　初老には　次回はエスカー使うかも

哲学を　伝えたいとの　志し　100年超えて　我れ感じたり

円了の　強い思いの　哲学堂　遠慮しないで　触れ合おう

物事は　信ずれば　救われる　信ぜず者は　足すくわれる

桜花　匂い誘われ　歩くたび、しばし忘れて　心休まる

世の中に　たえてコロナの　なかりせば　春の心は　のどけからまし

ルート2 （√2 ）は、一夜一夜に人見頃　今は桜の　よい見頃なり

人並みに　奢れるなとは　言うものの　奢れる者は　久しからずや

ルート5 （√５）は富士の山麓　オーム鳴く今　は客無く　ただ店主泣く

産医師は　異国の地には　向かうけど　コロナ怖くて　すぐ逃げ帰る

人々の　祈りを集め　願うるは　早く去れよと　新型コロナ  
ふと見れば　たとえ何かが　起ころうとも　桜静かに　咲きほこるなり  
毎日が　たとえどんなに　苦痛でも　必ず来るさ　よき安寧が

春の日の　終日（ひねもす）まったり　またりかな

あれもよし、これもよしとは言えないが　公園桜　ただ見事なり

ヤクルトと　味噌汁飲んで　乗り切ろう　他にも納豆　豆腐あり

がまんとは　桃栗三年　柿八年　新型ウィルス　もう嫌だねん  
がまんとは　桃栗三年　柿八年　コロナの影響　これ何だねん

パワハラと　セクハラだけじゃ　ありません　これから心配　特にコロハラ